

この、小さなヒョウタン形の池は、塩釜冷泉の水源だ。ここでは、300リットルの冷水が、ブクブク泡を立てながら、刻々と地面から湧き出ている。最深部で深さ1.9メートルとなるこの泉は、1年を通じ、およそ11℃に保たれている。

冷泉は、火山の近隣で見られることが多い。雨水が、安山岩や硬化した灰にしみ込み、その中を下行したのちに、麓の辺りで表面に出てくるのだ。この塩釜の泉は、中蒜山の麓にある。時折、観光客が登山口近くにある泉に立ち寄り、旅の記念に、ボトルに水を汲んでいる。

塩釜冷泉の水は、ミネラル含有量が非常に低く、また、清らかな、中性の水質で知られている。この泉は、約600家庭に対し、水を供給している。他の住民も定期的に水を汲みに訪れ、飲用水にしたり、料理やお茶・コーヒーに用いたりする。

泉へ続く道を通る観光客は、白い帯状の紙（神道の神聖な空間を示す飾り）をぶら下げた荒縄に目が留まるかもしれない。塩釜冷泉は、蒜山の農業に重要であることから、長きにわたり、地元の人々に珍重されてきた。塩釜冷泉は、旭川の源流として、灌漑用の頼りになる水源となっている。毎年6月20日には、住民が泉の恵みを尊び、豊作を祈るため、式典を催す。

珍しい動植物種の中には、塩釜冷泉を住みかとしているものがある。その一つが、縁の広い半透明の茶色の殻が特徴的な淡水巻貝、物洗貝（モノアラガイ）である。この名前は日本語で、「物を洗う巻貝」という意味であり、この貝が藻類や腐敗した有機物を食べることに由来する。そして、このおかげで、池は澄みきった状態に保たれている。